

令和6年度第2回川口市廃棄物対策審議会議事録

- 1 開催日時 令和6年11月20日（水）午後2時00分から午後2時45分まで
- 2 開催場所 リサイクルプラザ4階 研修室
- 3 出席者 （1）川口市廃棄物対策審議会委員：14人
学識経験者：河井 一広（副会長）
市議会議員：稲川 和成（会長）、幡野 茂
市 民：木村 利充、太田 博信、笹原 文雄
牧野 真知子、山本 一恵、島田 宏エ
池田 和美
事業者：林 嘉和、岩崎 康彦、鈴木 守郎、小林 愛未

（2）事務局：10人
須藤環境部長、金野環境総務課長、佐藤資源循環課長
岩田環境施設課長、中野新戸塚環境センター建設室長
環境施設課金子課長補佐、新戸塚環境センター建設室吉川室長補佐
資源循環課板橋課長補佐、飯田主査、神子主事補
- 4 傍聴者 1人 傍聴申込受付期間：令和6年11月13日（水）から
令和6年11月19日（火）まで 定員2人
- 5 議 題 （1）3R推進月間、食品ロス削減月間における啓発活動報告
（2）戸塚環境センターの施設整備について
（3）朝日環境センターの施設整備について
（4）その他

6 議 事 録

令和6年度第2回川口市廃棄物対策審議会
1 開 会
2 挨拶
会長挨拶
議事録確認者選任 岩崎康彦委員が指名される。
議題（1）3R推進月間、食品ロス削減月間における啓発活動報告

事務局から、資料に基づき説明。	
委員	資料１の１～２ページについて、廃棄物対策審議会委員が市役所職員とともに、ポスター及びパネル展示等の啓発活動に参加することはできないか。
事務局	今後の状況を踏まえて、検討していきたい。
委員	市民に向けた啓発において、市役所職員よりも委員の方が身近で効果的であるとする。
議題（２）戸塚環境センターの施設整備について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	資料２の４ページ３（２）について、現状、排水処理施設、焼却処理施設、粗大ごみ処理施設の解体の進捗状況はどうか。
事務局	東棟焼却施設に含まれるアスベストが想定以上であったため、解体に時間を要しているが、令和１２年３月の稼働に向けて工事を進めている状況である。
委員	稼働開始時期については、計画どおりであるという認識でよいか。
事務局	そのとおりである。
委員	資料２の２ページ１（４）自然学習広場について、実際はどのように運用する予定であるか。
事務局	施設の開錠時間は未定であるが、開錠時間中は市民が自由に使用することができるように検討している。
委員	施設への自己搬入について、正午になると門が施錠され車が渋滞してしまうが、どうにかできないか。
事務局	現在、施設への自己搬入は事前予約制であり、受付は３０分毎になっている。搬入可能時間は、午前９時から１１時３０分と午後１時から午後４時であるため、時間内に搬入してほしい。
委員	資料２の２ページ１（３）について、環境啓発展示エリアはどのように運用する予定であるか。
事務局	環境啓発展示エリアの展示内容については、今後検討していく。研修室については、小学校による施設見学だけでなく、一般の方も利用できるよう進めていく。

委員	多くの市民が使用することができるようにしてほしい。
議題（３）朝日環境センターの施設整備について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	資料３の２ページ２（１）第１回朝日環境センター施設整備審議会における焼却処理残さの処理方針について、再度の説明を求める。
事務局	焼却処理残さの処理方針については、本市は最終処分場を保有していないため、最終処分量の削減とリサイクル率の向上に努める必要があることから、朝日環境センターの再整備後も、炉型式に応じた資源化を推進していく。
委員	現在焼却している品目について、新たにリサイクルを進めていく品目はあるのか。
事務局	新たな施設を建設するにあたり、プラスチック資源循環促進法に沿った処理施設が必要であることは認識しているが、具体的な施設規模や処理方針は確定していない。
委員	朝日環境センターの解体に伴い、戸塚環境センターの再稼働との日程調整はどのようなになっているのか。
事務局	令和１２年に戸塚環境センターの再稼働を確認次第、朝日環境センターの解体を進めていく。本市のごみの排出量は微減傾向である。本市で生じたごみは本市内で処理していく。
委員	ごみの減量について、どのように考えているのか。また、焼却残さはどのように処理しているのか。
事務局	ごみの減量については、事業者による資源物回収など、市民の考え方やモラル等による影響もあると認識している。しかしながら、本市の世帯数は増加しているが、ごみの排出量は減少しているため、今後も周知啓発に努めていく。
事務局	焼却残さについては、現在県外の３施設で処理を行っている。また、朝日環境センターにて熔融化によるリサイクルも行っているが、民間施設でのリサイクルも視野に入れ、本市に適した手法で処理方法を検討していく。
委員	本市全体及び１人１日あたりのごみ処理費用を周知する必要がある。

事務局	清掃のあらましや小学生向け学習資料等を用いて、周知をおこなっている。今後もあらゆる機会を捉え、周知啓発に努めて参ります。
委員	収集した生ごみから肥料を作ることは可能か。
事務局	需要と供給の観点から、たい肥の活用場所がないことが問題となるため、現在、肥料を作ることは考えていない。
委員	乾燥機を用いて、生ごみ自体の量を減らしているが、現在捨てている部分も有効活用できないか。
事務局	資源循環課において、家庭で生じる食品ロス削減の手法の1つとして自宅のプランター等でのコンポストを提案しているが、市内全域での活用については、現時点では考えていない。
事務局	農政課にコンポスト等の土の活用の可否を確認したが、組成が不明であるため一括での活用は困難であるとのことだった。各家庭で使用していただくことは問題ない。
委員	市内の生ごみのみを収集・処理し、肥料にすることは費用対効果の面から難しいと考える。小さいコミュニティや各家庭で実施することは良いと思う。
議長	今回の意見を参考に、事務局で今後の方針を考えてほしい。
議題（４）その他	
事務局より、次回以降の廃棄物対策審議会の日程を伝達。	
質疑なし。	
議長	最後に委員のみなさんから何かあるか。
委員	第1回廃棄物対策審議会にて、路上喫煙について、川口駅西口の路上及び公園周辺の階段にて外国籍の方がルールを守っていないため、注意喚起を依頼した。その後、巡回パトロールの方を度々お見かけし、路上喫煙が減少したと感じた。
議長	みなさまから貴重な意見を賜りましてありがとうございました。それでは、以上で本日の議事は全て終了いたしました。円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。以上をもちまして令和6年度第2回川口市廃棄物対策審議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

	ました。
閉会 (1 4 : 4 5)	
会議の内容については、以上のとおりです。 令和 6 年 1 2 月 1 2 日 川口市廃棄物対策審議会議長 稲川 和成 川口市廃棄物対策審議会委員 岩崎 康彦	